

大館市総合教育会議 会 議 録

令和7年10月開催

令和7年度 第2回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年10月31日 金曜日
開会 15時 閉会 16時30分

2 会 場 市役所本庁舎会議室401、402

3 出席委員 市長 石 田 健 佑
教育長 長 岐 公 二
委員 山 田 和 人
委員 工 藤 啓 子
委員 真 田 かずみ

4 事務局 教育次長 若 松 健 寿
教育監 野 呂 謙 一
教育総務課長 北 林 香 子
教育総務課長補佐 宮 崎 史 人
学校教育課長 鈴 木 明
学校教育課長補佐 柴 田 賢
学校教育課長補佐 工 藤 貴 胤
生涯学習課長 畠 山 慶 子
生涯学習課長補佐 羽 沢 秀 則
中央公民館長 外 館 志
歴史文化課長 関 智 仁
歴史文化課長補佐 鳥 潟 幸 男

5 協議事項 (1) 次年度以降の重点的に講ずべき施策について

6 会議内容

○若松教育次長

ただいまより、令和7年度第2回大館市総合教育会議を開会いたします。

本会議構成員の皆様の出席状況は、小笠原正卓委員が都合により欠席となっております。

まず、会議の公開の取り扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はありませんが、報道関係者の取材希望が1社おります。

本日の会議につきましては、一部の項目を記事としないことを条件に会議を公開とし、傍聴を許可したいと思いますと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

開会に当たりまして、当会議の招集者であります石田市長がご挨拶を申し上げます。

○石田市長

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

教育長が新しくなり、教育にも新しい方向性を交えていただきながら、子どもも大人も学び合う環境を作っていくということにご尽力をいただいております。そこに対して教育委員の皆様にも共に力強く推進していただいていることに、改めて感謝申し上げます。

今、市民や団体との対話から見えてきた地域課題などを、これから市の最上位計画である「おおだて未来づくりプラン」に反映させていくというフェーズに入っています。本日はこの会議を踏まえて、教育の方向性をどうしていくかについて教育委員会の皆様と市部局とで方向性を一致させ、一緒に前進させてまいりたいと思っております。

また、近年話題となっている熊の問題がありますが、教育委員会を通じて指示を出させていただき、今のところ被害はないということですが、引き続き皆様からお力添えをいただきながら、子どもの安全安心な暮らしを守っていただきたいと思いますと思っております。

最近、私の友人で自分の子を沖縄県のインターナショナル・スクールに入れている人が何人かいて、その人の子どもは6歳で英語を話します。すごいと思ったのは、我々は当たり前のように日本語を話しますが、インターナショナル・スクールに通っている子どもたちは、おそらく物心付いた頃から日本語と英語を話し、成長段階で二つの言語を話すようになっていくのだらうと思いました。

こうした環境を作ってあげられるのか、例えて英語の話をしましたが、英語に限らずいろいろな分野において努力という領域ではなく、環境によって身に付くものがたくさんあると思うので、そうした教育環境や社会環境を作っていくということが我々の使命だらうと改めて実感しました。

教育においても努力というフェーズに入る前段階で、環境を作ってあげることに力を入れていくことと、市長部局としてはふるさとキャリア教育を踏まえて成長してきた子どもたちが、大館で活躍する場を作っていくためにもしっかりと連携を取りながら政策を推進していくことが必要だと思っております。

今日は議事もありますが、それ以外についても忌たんのない意見交換ができればいいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○若松教育次長

ありがとうございました。

本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要綱の規定により市長が議長と定められていることから、石田市長が務めることとなります。

石田市長、よろしくお願いいたします。

○石田市長

それでは、運営要綱に基づきまして、議長を務めさせていただきます。

円滑なご審議にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次第に従いまして、順次、進めさせていただきます。

次第3番、長岐教育長よりご挨拶をいただきます。

○長岐教育長

田代庁舎の教育長室から見える米代川に鴨が飛来しまして、秋の深まりを感じる時期となりました。この総合教育会議につきましては首長と教育委員会の連携強化、教育施策の方向性の共有を目的に設置をされておりますが、何より教育委員会という枠を超えて市政としての教育の有り様に目を配る、非常に貴重で重要な機会だと思っております。

教育委員会制度は市政の中で独立した機関です。この独立した機関を置くことで中立的、専門的な行政運営を目的とする制度であります。教育委員会だけでは解決できないこともたくさんあります。何より今猛威にさらされている熊の問題が代表的です。学校は熊の駆除も追い払うこともできません。熊と出会わないようにすることが学校にできる唯一の施策ということになります。

最近のテレビニュースを見ますと、後ろから追いかけて人を襲う、あるいは熊が昼間のスーパーに入口から堂々と入っていく。中に人がいてもお構いなしに高い窓から民家に侵入する。また、学校の玄関に体当たりしてガラスを砕くなどというこれまでの常識では到底通用しないニュースが頻繁に流れております。

そんな中、通学路を中心に消防車両で巡回してくださり、また、自衛隊に通学路での見守りを要請するなど、子どもたちを守る体制に市長自ら力を入れてくださっていることに心より御礼申しあげます。これも総合教育会議のような職務の垣根を越えて議論できる場があってこそその成果だと思っております。

今日は、直接市長と教育について語れる貴重な機会でありますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

○石田市長

ありがとうございました。

次に、4番の協議事項について、事務局より説明を求めます。

はじめに長岐教育長から「大館ふるさとキャリア教育戦略の重点」について説明をお願いします。

○長岐教育長

資料に基づきまして、大館ふるさとキャリア教育の戦略についてお話しします。

ふるさとキャリア教育の最大の目的は、大館への愛着と誇りを持ち、社会人として自立した人材を育成すること。市長の言葉を借りるならシビックプライドの醸成に深く関わっている施策であります。その視線をもってお聞きいただければと思います。

ふるさとキャリア教育の全体構造の中で、特に重点として掲げているのは“ カッコいい大人との出会い ”であります。具体的には、ふるさとキャリア教育一覧の地域連携・貢献とトピックスに今年度の各校の取り組みを載せておりますが、新聞でも数多く取り上げられているように、今年から様々な実践が展開されております。

その中で、花岡小学校では鳥潟会館のツアーガイドを始めることとして、本日午前中に初めてのガイドを実施しております。あの鳥潟会館の駐車場が満杯になり、今までこんなに人が入ったのを見たことがないくらいの賑わいぶりでした。

このようにふるさとの「物」「事」などを素材に取り上げることで「大館盆地を学び舎に、市民一人一人を先生に」というコンセプトを具現化することはこれからも変わらぬ重点であり、中でも特に人という素材、「ふるさとに生きる」「ふるさとを思う」「ふるさとに尽くす」そんな人の志に触れること、それこそが“ カッコいい大人 ”との出会いだと思っていて、その出会いの先に大館に対する「夢」「希望」「決意」が芽生えるものと考えております。

つまり、シビックプライドはシビックプライドによって育つ。これを一層進めていきたいと考えております。特に今年度進展が見られたのは高校とのつながりです。高校生による学習支援、商品開発支援など小中学生と高校生が共に学ぶ、共に活動する場面がこれまで以上に増えました。

子どもハローワークによるボランティア募集にも、高校生の応募が多数見られるようになり、きりたんぼ祭りでは80人を超える高校生が応募しました。小中学生にとって高校生は最も身近な“ カッコいい大人 ”であり、その影響力は絶大であると考えていて、高校の学校経営は市教委の管轄外ですが、大館で育つ子どもを育てるという視点から、ふるさとキャリア教育の理念が高校の学校経営に反映されていくことが望ましいと考えております。今回、高校との連携が深まったということはそこに一步近づいたのではないかと考えております。

教育ツーリズムについては、今年の実入人数が560人でした。また、こちらから出向く発信規模は約900人となっております。昨年度は全国キャリア教育大会という大きな大会を本市で実施していたことから、今年はそれより減少しておりますが、交流発信の目的は大館市の子ども、教員の力を高めることにあって、その効果を期待できる規模としては十分であると認識しておりますので、引き続き教育ツーリズムを展開してまいりたいと考えております。

今日は、せっかくの機会なので全国学力学習状況調査の結果について触れたいと思います。4月に実施した全国学力学習状況調査の結果を見ると学力面、意識面共に非常に良好な状況が続いております。小中学校共に国語、算数、数学、理科の3教科を

実施しておりますが、小学校の算数を除いてその他全ての平均通過率が県と全国を上回っております。

唯一、県より下回っているのは小学校の算数ですが、下回っているのは1ポイントだけであり、全国との比較では問題なく超えていますので、状況としては懸念するものではないと考えております。

特に成果が顕著だったのは質問紙による回答です。「地域や社会のために何かをしたいと思うか」という問いに対して、小中共に9割を超える子どもが「そうだ」と答えています。この結果は県平均との比較で3から5ポイント、全国比では実に10ポイント以上高いです。

大館の児童生徒の地域貢献意識は飛び抜けて高いといっていると思います。さらにここ数年の懸案である不登校については、4月以来、昨年、一昨年に比べると減少しているといえます。過去の不登校の推移では見られなかった傾向です。

これまで未然防止だけに注力してきた対応に対して、今年度は早期発見、即時対応の在り方を見直してきた経緯がありますが、その効果が多少なりとも現れていると思っております。大館市は減少傾向をつかんでいますので、これを維持していきたいと思っております。例年2学期は増加する傾向にあるため、このまま下がって推移するとは思っておりませんが、休んでいても成長しているということを合言葉に取り組んでまいります。

最後に教員の働き方改革について、国の給特法（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等）が6月に改定されました。教員の業務量の適切な管理について計画を策定し、総合教育会議で報告することが義務付けられ、令和8年4月1日施行となります。来年度以降の本会議で報告することになりますのでお知らせいたします。

それではこの後、各課からの教育施策について説明がありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○石田市長

ただいまの協議事項について、皆様から順番にご意見を伺うことにしますが、まずは私から意見を述べたいと思います。

教育長のシビックプライドというところを押し出していただいて、特に“かっこいい大人・かっこいい大館”というフレーズは素晴らしいと思いました。子どもも大人も一度聞いたら覚えられるフレーズなので、こういうフレーズを設定するときに我々行政は難しい言葉を入れがちですが、誰でも覚えられるフレーズにさせていただいたというのが有り難いと思いました。

ふるさとキャリア教育についても私が「市長と話そう」で各地域を回らせてもらったときに、その地域の人たちにまで、大館のふるさとキャリア教育は素晴らしいものだとして認識していただいているということがすごく誇らしいと思いました。正にシビックプライドだと思います。

このシビックプライドについても、将来どうなりたいかと私自身が考えたときに、東京のお金持ちよりも、将来は地域にいる優しいおじいちゃん、おばあちゃんになりたいなと思いました。そう考えたときにお金はもちろん大切ですが、お金よりも“カッコいいおじいちゃん”になりたいと考えています。街を愛するということを重視しながら教育施策を進めていただきたいと思います。

○長岐教育長

これまで、各学校で地域の方々と連携しながらいろいろな活動をしておりますが、そこで見られるカッコいい大人のほとんどは、“カッコいいおじいちゃん、おばあちゃん”なのです。カッコいい大人の一番近いところが高校生、大学生、保護者などへ目を向けていく戦略は大事だろうと思っています。

○真田委員

大館盆地から学ぶということで、大館で働くカッコいい大人の姿、仕事の内容だけではなくて地域と触れることで育まれる職業観とか、勤労観というものがあると思います。高校生の話も含めて地域と連携して子どもたちを育てていこう、学んでいくというのが非常に重要なことだと思っています。

○工藤委員

カッコいい大人の文言はとても好きです。ただ、何をもって、カッコいい大人とするかの定義が大事だと思っています、そこが大館の教育の目指す理念とぶれなければいいなと思っています。

先ほど、教育長の説明にあった「シビックプライドを持った大人たち」、そこをみんなで共通認識して進めていけたらいいと思っています。今日、花岡小学校のガイドツアーに参加させていただいたのですが、子どもたちが花岡のこと、鳥潟会館のことを学んで、自信と誇りを持って説明している姿に嬉しくなりました。

そのシビックプライドは自分が生まれ育ったふるさとの歴史や文化、人も含めて誇りを持つことが、ふるさと教育の原点だと思います。多分一昔前の大人は、自分の育った地域のことは何も分らず市外に出ています。ふるさとキャリア教育の原点がシビックプライドを持たせることだと思うので、この後も大事にしていきたいと思っています。

十数年間、各学校でいろいろな関連した活動を続けているのですが、活動を継続することがありきではなく、そのシビックプライドを醸成することが大事なのだという事を基本として、続けていきたいものだと思っています。

花岡小学校の校長からお話をいただきましたが、市からの助成を受けていろいろできたようなので、物心両面でのサポートもお願いしたいと思っています。

○山田委員

シビックの言葉自体はギリシャ、ローマ時代からあります。シビックとは市民や民という言葉ですが、この言葉は私の歴史的な観点から言わせると、自分たちのことは自分たちで決められるのが市民ではないかという認識を持っています。

その原点が何かといえ、自分のことは自分で考えられることではないかと思っています。大館ではそういう子どもたちがふるさとキャリア教育の中で15～6年前から次々と育っています。

もちろん英語をしゃべることも大事です。いろいろな知識を持つことも大事ですが、一番大事なことは市民としての気概を持つこと、つまり自分のことは自分の頭で考える、自分の言葉でしゃべる、そして他人への思いやりを持つ、自立の気概を持つ、大館市の子どもたちは十数年前からそれができつつあります。

そんな子どもたちだからこそ、90パーセントがこの街に戻りたいという思いを持つのだと思っています。私たちがこの十数年間、教育委員として培ってきたことは子どもたちに自ずと伝わっていますし、その子どもたちから逆に学ばせていただいていることが多いのではないかと思います。

子どもたちが市民です、私たちも市民です。そういう市民がこれから大館を作っていくと思うと大館市がますますわくわくできる、そんな感想を持ちました。

○工藤委員

不登校について質問です。子どもの数が減ってきていますが、割合的にはどうなのでしょう。

○長岐教育長

子どもが減少していく割合よりも不登校の発生率は下がっていますので、子どもが減少したことだけによる不登校数の減少ではありません。

○工藤委員

早期発見、即時対応がよかったということですが、具体的に何がよかったのですか。

○長岐教育長

去年までの取り組みで懸念していたのは、未然防止という言葉が県教委でも不登校対策の一番手に上がってきます。未然防止という言葉は学級づくりとか、楽しい学校を作るとか、不登校に限らず一般的な取り組みの中にあります。“未然防止”、響きはよいのですが、何もやっていなくても未然防止と言ってしまう部分があり、これをずっと訴えてきても一向に不登校は減らず、増えていく一方だとすれば未然防止をしつつ、不登校に陥った子どもに対して、きちんと対応しているかを見ていかなければならないというのが発想です。

やることは簡単です。子どもの変化をいち早く察知して、いち早く何かをする、アクションを起こす、それだけです。そのアクションの仕方は子どもの実態によって違

うので、必ずこうしなさいということはありません。でも教員なのでやることはいろいろなアイデアがあります。チームとして行動していれば管理職やスクールカウンセラーもいます。

そういう中で動ければ必ずいいことがあるということと、一度不登校になって家に入ってしまった子どもでも必ず成長しています。そういう成長している部分を感じ取ることができれば、それを評価することができます。

例えば、家で漢字練習しているといろいろあります。学校に来られなくても評価できる部分があるはずです。それを今までは「出席していないので通知表でも指導要領でも評価できません」とやってきたものを、行動だけでも通知表には評価できます。それを記録して家庭に返すという方法もできるはずです。そこに目を向けるようになれば関わり方が絶対変わります。

まだ途中なので分かりませんが、今私たちが現場に訴えているのは、どうやれば学校に来るだろうではなく、休んでいてもいいので、その中で子どもの成長を見取るようにしようというやり方です。

○工藤委員

評価してもらう、認めてもらうことは大事ですね。先生方は相当業務が忙しいと思うのですが、頑張っていることに感謝します。

○石田市長

今の関連で、中学校に入ってから不登校数が増える原因は何かあるのですか。

○長岐教育長

毎年、夏休み以降に不登校数が増加するという傾向は小学校も同じです。例えば、学校に行きづらいと思っている子どもが一学期は頑張って行ったとしても、長期休業を挟むとそこから再スタートできなくなってしまうというケースがあります。

○石田市長

不登校数は小学生より中学生が多くなるのですか。

○長岐教育長

小学校の不登校傾向をそのまま引き継いでいます。新たな不登校が出ると上積みになっていきますので、増えていくのは当たり前の論理です。ここを抑えるために解消していくことを考えていかなければなりません。

○石田市長

次のテーマに移ります。

各課では4つの施策テーマがありますが、一括で説明させていただいたあと、皆様

からご意見を伺いたいと思います。

(事務局より説明)

○石田市長

ただいまの協議事項について、私から聞きたいところがあります。

待機児童の解消について、今、熊の関係で子どもの迎えになかなか来られないなどの声は、現状ではないということですか。

○生涯学習課長

放課後児童クラブですが、学校では帰りにも「熊に注意してください」ということを保護者の方々にメールなどで提供していますし、市の公式ラインを保護者の方々も理解しております。後は児童クラブで熊が危険だとなれば、個別に親御さんに電話して迎えに来てもらうようお願いしたり、帰るときに鈴を付けたり、集団で帰るように指導するなど先生たちも気配りしています。

○山田委員

鳥潟会館は何度行っても発見がある、文化財としての価値が高い施設だと思っております。建物が県の指定文化財で庭が国の指定として分かれています、子どもたちが「こちらから見る鳥潟会館が素敵です」と話をしてくださった割には、屋根のさびなどがありました。

地域の文化財を大切にすることはもちろん、国や県の財政をよりどころにしなければいけないということもありますが、市としてもできることはしていただきたいです。例えば、クラウドファンディングなどで市の主だった文化財を市の力として保護していくような形、いわゆる気概なるものを持っていかなければならないだろうと、鳥潟会館を拝見した際に感じました。

大仙市に旧池田氏庭園があります。鳥潟会館の庭より大きく、拝観料を頂戴して中を見てもらうようになっています。ゆくゆくはそういう形にして整備を重ね、保護も国や県の力をいただきながらやっていけばいいと思いました。

そのような文化財が大館には宝のようにありますので、時間が掛かるでしょうけれど、ぜひ教育委員会として一つ一つ活用し、またSNSで発信しながらやっていけばいいと思いました。いずれにしても今日の小学生の活躍には頭が下がる思いでした。

○石田市長

ちなみに鳥潟会館の入館料の話ですが、ガバメント・クラウドファンディングの可能性はあるのですか。

○歴史文化課長

現在、入館料は無料です。部屋を貸した場合は数百円の料金をいただいております。全国の国指定の庭園を見ますと入園料を取っている、取っていないは様々です。鳥潟会館は昨年12月に指定になったばかりで、今後検討していくことだと思っておりますが、入園料をもって維持管理費を賄えるかといえばそうではないです。

それよりも市外の方々、国外の方々に気軽にお立ち寄りいただけるように無料のままというのも一つの選択肢ではないかと考えております。今後は名勝鳥潟会館庭園保存活用計画策定委員会（以下、策定委員会）の中でもこの話題が出てくると思いますので、そちらの意見をお伺いしながら、ガバメント・クラウドファンディングについても検討していきたいと思っております。

○工藤委員

今の話に関連するかもしれませんが、今回、子どもガイドとして人がたくさん集まりましたが、県外の方、国外の方にも来てもらえる名勝としてきちんと続けていくのであれば、整えるということは大事だと思います。周りの樹木の整備などにお金が掛かることは分かるのですが、そこがやはり大事かなと思います。

一番気になったのは鳥潟会館の屋根がさびていることです。子どもたちのガイドに合わせて見たときに屋根が見えてしまいます。何度かお邪魔しているのですが、傷みが進んでいると感じました。工夫しながらの整備が大事だと思います。

○石田市長

事務方から、屋根の整備となった場合にどういう方法が考えられますか。

○歴史文化課長

建物については県の指定になっており、通常であれば県と市で費用を折半し、県から補助をいただいておりますが、県も財政が厳しいということです。実状では民間所有の指定物には予算を出していますが、公の所有物には要綱上、出せることになっているものの予算がないのが現状です。

鳥潟会館の屋根については、面積が広いため数千万円掛かります。今考えているのは部分的に少しずつ修繕することを検討しておりますが、策定委員会の委員の皆様からご意見をいただいて、今後早急に方針を固めていきたいと思っています。

○工藤委員

財政的に厳しいのは重々承知していますが、いろいろ工夫していただければと思います。

ふるさとキャリア教育に関連して先ほどもお話しましたが、今日の鳥潟会館のガイドを聞いただけでも学びがどんどん広がるなど、ふるさとについての学びが波及していろいろなことを知りたい、学びたいということが出てくるのです。学校でいえば総

合的な学習時間の内容だと思いました。

この取り組みが高校生まで成果が現れているということで、ふるさとの学び、活動を若者、親世代にもつなげていくと、市民全体がふるさとを大事に思う気持ちにつながるのかなと思います。ふるさと教育の理念を若者世代、親世代にも広げていければいいなと改めて思いました。

閉校した旧岩野目小学校の利活用ということで、どういうふうに使うとか、構想などはあるのですか。

○教育総務課長

ここ2、3年、いくつかの企業から視察に見えていますが、実際に契約までたどり着いていません。

○石田市長

業種は为什么呢。

○教育総務課長

畜産関係と薬品関係だと思いました。関東地方などからでしたが、国道から遠いこともあるのか、地理的な条件などでハードルがあるような気がします。

○若松教育次長

できれば、市としては企業に来ていただいて、使ってもらえれば収入を得ることもできます。旧山田小学校の生ハムの事例や大葛小学校の比内地鶏の事例、そういうふうにもっていただければいいと画策しているところです。

○真田委員

大館学び大学事業の定着ということで、私の知り合いにフリーライターがいるのですが、この学び講座でライター養成講座を受けてフリーライターになった方がいます。これをきっかけとしてキャリアの変容があり、その後、自ら学び大学で講師をやった方なのですが、こういう地方に住んでいてキャリアの築き方とか、働き方に悩んでいる若い人、同じような年代の方がたくさんいます。

そういった中で学び大学の果たす役割はすごく大きいと思っています。一般の講座と違うと思うのですが、若い人たちへのケアと変容に結び付くような事業として、資格取得につながるよう続けていただきたいと思います。

そして、鳥潟会館のガイドツアーは子どもたちのおもてなしの心とか、しっかり伝えようとする姿勢が感じられてすばらしいと思いました。先ほど委員からもありましたが、市民からも市外の方々からも非常に注目をされている中で、通常はガイドの方が一人で迎え入れ、他のお客様にも対応しながら、また私のところに戻って来てというように、大変そうだなという印象がありました。

これからガイドをやってもらおう方々への対応として、予算や財政の問題があると思いますが、例えばQRコードから読み取ってガイドページが出てくるとか、外国の方が来たときに外国語に対応できるページがあるとか、その場に案内があるとか。

鳥潟会館に行くたびに学びがありますし、委員からもあったように樹木の種類も大変珍しいものがあります。そういった専門のガイドツアーもあったということを聞いて、対応の工夫が必要なのかなと思いました。

○山田委員

最近、外国の方が大館にも見えているということで、例えば、私が外国に行ったときに自分でガイドブックを見ていろいろなところに行くのは、それはそれで楽しいのですが、もしも、そこにガイドさんが一人いてくれて日本語がしゃべれて、食事ができてということをしていただけるガイドさんがいたなら、私の今の年齢であれば必ずガイドさんをお願いします。この間、京都に行ったときにガイドさんをお願いしました。費用はそれなりに掛かりますが、その価値はあります。

短時間でたくさんのことを教えてくださり、混んでいる所もスイスイ通らせていただいて、多少費用は掛かりますが非常に充実した旅でした。そういうことを外国の方が大館でしようと思ったときに、英語をしゃべれて、文化的なことを知っているガイドさんは大館にいるのかなと考えることがあります。

例えば、そのときその方がSNSのインフルエンサーだったとしたら、とんでもない波及効果が起きてくると思うのです。しかも最近話を聞くと、東京、京都、大阪は大体行って、後は自分が本当に行きたい場所に行っていると聞きます。そういう方々もいるということも含めて人材を育成していくことが、これから大館の文化を発信していくためにも必要な施策の一つではないかと考えていました。

○石田市長

これに関しては、私から観光課や地域連携DMOにこの話を共有します。私の思い浮かぶ人は地域連携DMOに一人います。その方の発信を見て二人でオーストラリアから大館に来られ、英語で観光しながら一緒に歩いたようです。それが歴史や文化まで広がっているのかは分かりませんが。

○山田委員

観光課と教育委員会のコラボレーションをしてもいいと思うので、学芸員と掛け合わせしながら人材を育成していくことが大事だと思います。

○石田市長

郷土博物館がだいぶ古くなっていますし、場所も離れているということで、どうか有効的に活用できないかと思っています。文化や歴史を守るのは我々の役目だと思います。インフルエンサーが来て発信してくれれば一番いい形だと思いますが、これ

を検討事項として我々も考えていきます。

○石田市長

各委員から他にご意見がなければ、協議事項について「異議なし」として終了させていただきます。

事務局の各課においては、本日の総合教育会議での協議内容を踏まえ、示された方向性に基づき施策の実施に取り組んでいただくよう、お願いします。

ここで議長の職を解かせていただきます。

円滑なご審議にご協力くださいます、ありがとうございました。

○若松教育次長

本日は皆様からの貴重なご意見、活発な協議、ありがとうございました。

本日の会議で協議されたご意見等を踏まえ、精査した上で今後の教育委員会の施策を実行してまいります。

以上をもって、令和7年度第2回大館市総合教育会議を閉会いたします。

本日は、ありがとうございました。

以上